



第3部 实践事例



評価シートの様式

学校評価シート

学校教育目標		重点目標	

A...よくできた B...できた C...あまりできなかった D...できなかった

領域	評価の観点	評価項目	実践目標と成果	自己評価
学校運営			実践目標 成 果	
			実践目標 成 果	
			実践目標 成 果	
			実践目標 成 果	
			実践目標 成 果	
			実践目標 成 果	
教育課程			実践目標 成 果	
			実践目標 成 果	
			実践目標 成 果	
			実践目標 成 果	
			実践目標 成 果	
			実践目標 成 果	
			実践目標 成 果	
			実践目標 成 果	
課題教育			実践目標 成 果	
			実践目標 成 果	
			実践目標 成 果	
			実践目標 成 果	
			実践目標 成 果	
			実践目標 成 果	

学校評価シート

学校教育目標	前年の学校評価の結果や、保護者・地域の人々のニーズなどを踏まえて「学校教育目標」を設定する。 (P 8・9参照)	重点目標	「学校教育目標」を受けて、当該年度に重点的に取り組む目標を設定する。 (P 8・9参照)
---------------	---	-------------	---

A...よくできた B...できた C...あまりできなかった D...できなかった

領域	評価の観点	評価項目	実践目標と成果		自己評価
学校運営	開かれた学校づくり	家庭や地域の人々への情報発信	実践目標	学校通信の発行、学校ホームページの運営等によって、学校の教育活動の方針や内容に関する情報を家庭や地域へ提供する。	A
			成果	学校通信は、毎月1回発行した。ホームページは毎月更新し、保護者以外の人たちへの情報発信を積極的に行った。	
		住民参加の教育活動の推進	実践目標	「いきいき学校応援団」等を活用し、地域の人々に協力いただく授業を積極的に実施する。	B
			成果	1、2年生は1学期の生活科の時間に、3年生以上は2学期の総合的な学習の時間に支援を得た。4年生については、全学期にわたって協力を得た。	
		実践目標	「評価の観点」「評価項目」を受けて、具体的にどうい うことに取り組んでいくの かを「実践目標」に掲げる。 (P 29～33参照)		
		成果			
教育課程			実践目標	自己評価の結果を4段階で示す。 (P 14参照)	
			成果	取組の成果や課題を具体的に記述する。できるだけ根拠となる数値やデータを示す。 (P 16参照)	
			実践目標		
			成果		
			実践目標		

2 校種別の評価項目の内容

共通項目の「＜必須＞評価項目」についてはすべての学校で、「＜自由＞評価項目」については学校の実態に応じて設定する。また、「＜自由＞評価項目」以外にも各学校で評価項目を設定することができる。

選択項目、学校独自項目については、それぞれの「評価の観点」に掲げた「評価項目（例）」の中から、学校の実態に応じて評価項目を選択する。また、「評価項目（例）」以外にも各学校で評価項目を設定することができる。

【幼稚園】

（共通項目）

領域	評価の観点	＜必須＞ 評価項目	＜自由＞ 評価項目（例）
園運営	開かれた幼稚園づくり	家庭や地域の人々への情報発信 保護者や地域の人々の保育活動参加	学校評議員制度等を活用した園経営の推進 園行事へのゲストティーチャーの活用
	子育て支援の推進	「親と子の育ちの場」としての役割や機能の充実	子育て相談活動の実施
	危機管理体制の整備	実効ある学校マニュアルの策定 家庭や地域社会と連携した危機管理体制の推進	子どもに対する防犯教育の充実 教員の実践的な研修・訓練
教育課程	幼児期にふさわしい生活の展開	興味や関心に基づいた直接的な体験が得られる生活の工夫 友だちと十分にかかわって展開する生活の工夫	教師との信頼関係に支えられた生活の工夫
	遊びを通しての総合的な指導	幼児の主体性を大切にした指導	仲間づくりなど社会性を培う指導の工夫
	道徳性の芽生えの育成	幼児の体験や経験を通じた道徳性の芽生えの育成	小学校低学年との連続性のある指導の工夫
課題教育	人権教育	幼児期の特性を捉えた人権意識の育成	相手を思いやる心の育成
	防災教育	教員の防災教育に係る指導力・実践力の向上	遊びや生活の中での体験を通じた安全教育の実施

（選択項目）

領域	評価の観点	評価項目（例）
園運営	教職員の資質向上	実践的指導力の向上 社会のニーズを捉えた教育観の育成 計画性のある研修の実施 家庭や地域社会との円滑な関係の構築
	園における情報化	教職員の情報活用能力の向上 個人情報保護等情報管理の徹底
教育課程	校種間連携	幼・小連携の推進 私立幼稚園との連携 幼・保連携の推進 中学校や高等学校等との連携
	基本的な生活習慣の育成	園生活全般にわたる機会を捉えた基本的な生活習慣の育成 家庭や地域社会と連携を図った指導
	一人一人の発達特性に応じた指導	幼児一人一人の発達の特性を踏まえた指導 幼児の発達の内面を理解する指導法の工夫
	計画的な環境の構成	見通しをもった計画的な環境の構成 幼児と活動をともにしながら構成する環境の工夫
	体力・健康づくり	保育活動全体にわたっての計画的な体力づくりの実施 体力向上や健康づくりにつながる遊びの場づくり
課題教育	障害児教育	盲・聾・養護学校等の障害がある幼児・児童との交流 家庭や関係機関との連携 幼児一人一人の課題を明確にした指導計画の作成

（学校独自項目）

領域	評価の観点（例）	評価項目（例）
園運営	遊具や用具の整備	幼児の特性に応じた健康と安全を重視した施設環境の確保 周辺環境との調和に配慮した施設の整備

【小学校】

(共通項目)

領域	評価の観点	<必須> 評価項目	<自由> 評価項目(例)
学校運営	開かれた学校づくり	家庭や地域の人々への情報発信 住民参加の教育活動の推進(「いきいき学校」応援事業)	学校評議員制度等を活用した学校経営の推進 学校施設の地域への開放
	生徒指導	好ましい人間関係と豊かな集団生活が営まれる学級づくり 児童の内面の理解を図る指導の工夫	児童の自主・自律の精神を育む指導の工夫 生徒指導方針の確認と指導体制の推進
	危機管理体制の整備	実効ある学校マニュアルの策定 家庭・地域社会及び関係諸機関と連携した危機管理体制の推進	児童に対する防犯教育の充実 教員の実践的な研修・訓練
教育課程	自ら学び自ら考える力の育成	指導内容・指導方法の工夫改善 体験的・問題解決的な学習の展開	主体的に学ぼうとする意欲・関心を高める学習活動 自主的・自発的な学習習慣の育成
	基礎・基本の定着と個に応じた学習指導の徹底	指導内容・指導方法の工夫改善 評価方法の創意工夫	基礎的・基本的内容の把握と評価規準の設定 学ぶ機会の充実
	道徳教育	全教育活動の中での道徳性の育成 道徳の時間の指導の工夫	指導体制や研修体制の充実 魅力的な教材の開発・活用
	総合的な学習の時間	学校としての全体計画の作成とその工夫改善 各教科との関連を図った指導の展開	外部人材や外部施設等の活用 評価方法の創意工夫
課題教育	人権教育	人権教育推進体制の整備・充実 人権尊重の精神の育成	児童の自己実現を支援する活動の充実 人権尊重の学校文化を築く取組の充実
	体験活動の充実(自然学校)	児童の主体性を生かした自然学校の実施 自然学校での体験がその後の生活に生かされる指導の工夫	教育課程に適切に位置づけた全体計画の作成及びねらいの明確化 児童の安全・健康管理体制の整備
	防災教育	教員の防災教育に係る指導力・実践力の向上	効果的な教材の開発及び実践

(選択項目)

領域	評価の観点	評価項目(例)
学校運営	教職員の資質向上	実践的指導力の向上 社会の変化に対応した教育観の育成 計画性を持った研修の実施 家庭や地域社会との円滑な関係の構築
	校種間連携	異校種との連携体制の確立 学びの連続性をふまえた指導
	学校における情報化	教職員の情報活用能力の向上 個人情報保護等情報管理の徹底
教育課程	特別活動(学校行事など)	自主的・実践的な活動の活性化 学校行事の精選と行事内容の充実 発達段階に応じた社会性の育成の工夫 各教科との関連を図った指導
	体育・スポーツ活動	教育活動全体における計画的な体育・スポーツ活動の実施 運動が好きになり、運動技能が高まる指導の工夫
	芸術文化活動	教育活動全体における計画的な芸術文化活動の実施 多様な技能、鑑賞能力の育成
	障害児教育	児童個々の課題を明確にした指導計画の作成 適切な就学指導 指導方法や指導体制の工夫 障害児教育の理解・啓発の推進
	読書活動の推進	家庭と連携した読書習慣の確立と読書指導の充実 学習情報センター・読書センターとしての学校図書館の整備
	健康教育	学校保健の充実と児童の健康に対する意識の向上 健康面からの望ましい生活習慣の育成
課題教育	情報教育	情報活用能力の育成 情報機器や情報通信ネットワークの活用 情報モラルの育成
	国際理解教育	他国の歴史や文化の理解 交流事業の推進
	福祉教育	高齢者や障害のある人などへの理解を深める指導の推進 福祉体験活動等の推進
	環境教育	よりよい環境の創造に向けた、児童の実践的な態度の育成 教員の環境問題についての指導力の向上
	食に関する指導	教育課程における望ましい食習慣の育成 学校給食を通じた食に関する指導
	帰国・外国人児童に関わる指導	児童の状況に応じた指導体制の充実 多文化共生をめざす教育の推進 家庭や地域社会との連携・協力体制の推進

(学校独自項目)

領域	評価の観点(例)	評価項目(例)
学校運営	社会教育施設等の活用	学社融合の視点に立った社会教育施設との連携・協力体制の推進 生涯を通じて自ら学ぼうとする意欲や関心を高める学習活動の展開

【中学校】

(共通項目)

領域	評価の観点	<必須> 評価項目	<自由> 評価項目(例)
学校運営	開かれた学校づくり	家庭や地域の人々への情報発信 住民参加の教育活動の推進(「いきいき学校」応援事業)	学校評議員制度等を活用した学校経営の推進 学校施設の地域への開放
	生徒指導	好ましい人間関係と豊かな集団生活が営まれる学級づくり 生徒の内面の理解を図る指導の工夫	生徒の自主・自律の精神を育む指導の工夫 生徒指導方針の確認と指導体制の推進
	進路指導	主体的な進路選択能力の育成 職業観・勤労観の育成と進路意識の向上	進路指導体制の充実 保護者と連携した進路指導の工夫
	危機管理体制の整備	実効ある学校マニュアルの策定 家庭・地域社会及び関係諸機関と連携した危機管理体制の推進	生徒に対する防犯教育の充実 教員の実践的な研修・訓練
教育課程	自ら学び自ら考える力の育成	指導内容・指導方法の工夫改善 体験的・問題解決的な学習の展開	主体的に学ぼうとする意欲・関心を高める学習活動 自主的・自発的な学習習慣の育成
	基礎・基本の定着と個に応じた学習指導の徹底	指導内容・指導方法の工夫改善 評価方法の創意工夫	基礎的・基本的内容の把握と評価規準の設定 学ぶ機会の充実
	道徳教育	全教育活動の中での道徳性の育成 道徳の時間の指導の工夫	指導体制や研修体制の充実 魅力的な教材の開発・活用
	総合的な学習の時間	学校としての全体計画の作成とその工夫改善 各教科との関連を図った指導の展開	外部人材や外部施設等の活用 評価方法の創意工夫
課題教育	人権教育	人権教育推進体制の整備・充実 人権尊重の精神の育成	生徒の自己実現を支援する活動の充実 人権尊重の学校文化を築く取組の充実
	体験活動の充実 (「トライやる・ウィーク」)	事前事後を含め、生徒の意識を高める指導の工夫 家庭や地域社会と連携した指導の充実	校区推進委員会等との連携
	防災教育	教員の防災教育に係る指導力・実践力の向上	効果的な教材の開発及び実践

(選択項目)

領域	評価の観点	評価項目(例)
学校運営	教職員の資質向上	実践的指導力の向上 社会の変化に対応した教育観の育成 計画性を持った研修の実施 家庭や地域社会との円滑な関係の構築
	校種間連携	異校種との連携体制の確立 学びの連続性をふまえた指導
	学校における情報化	教職員の情報活用能力の向上 個人情報保護等情報管理の徹底
	部活動	自発的な活動の活性化 生徒の健康や安全面についての配慮
教育課程	特別活動(学校行事など)	自主的・実践的な活動の活性化 学校行事の精選と行事内容の充実 発達段階に応じた社会性の育成の工夫 各教科との関連を図った指導
	体育・スポーツ活動	教育活動全体における計画的な体育・スポーツ活動の実施 運動が好きになり、運動技能が高まる指導の工夫
	芸術文化活動	教育活動全体における計画的な芸術文化活動の実施 多様な技能、鑑賞能力の育成
課題教育	障害児教育	生徒個々の課題を明確にした指導計画の作成 適切な就学指導 指導方法や指導体制の工夫 障害児教育の理解・啓発の推進
	読書活動の推進	家庭と連携した読書習慣の確立と読書指導の充実 学習情報センター・読書センターとしての学校図書館の整備
	健康教育	学校保健の充実と生徒の健康に対する意識の向上 健康面からの望ましい生活習慣の育成
	情報教育	情報活用能力の育成 情報機器や情報通信ネットワークの活用 情報モラルの育成
	国際理解教育	他国の歴史や文化の理解 交流事業の推進
	福祉教育	高齢者や障害のある人などへの理解を深める指導の推進 福祉体験活動等の推進
	環境教育	よりよい環境の創造に向けた、生徒の実践的な態度の育成 教員の環境問題についての指導力の向上
	食に関する指導	教育課程における望ましい食習慣の育成 学校給食を通じた食に関する指導
帰国・外国人生徒に関わる指導	生徒の状況に応じた指導体制の充実 多文化共生をめざす教育の推進 家庭や地域社会との連携・協力体制の推進	

(学校独自項目)

領域	評価の観点(例)	評価項目(例)
学校運営	施設や設備の整備	日常の安全対策を含めた施設・設備の安全管理体制の整備 施設・設備の整備状況の把握と整備計画の策定

【高等学校】

(共通項目)

領域	評価の観点	<必須> 評価項目	<自由> 評価項目(例)
学校運営	開かれた学校づくり	家庭や地域への情報発信 学校評議員制度等を活用した学校運営の推進	学校施設や教育資源の地域への開放 地域や関係機関と連携した安全な学校づくり
	生徒指導	生徒指導方針の確認と指導體制の推進 生徒の内面の理解を図る指導の工夫	生徒の自主・自律の精神を育む指導の工夫
	進路指導	進路指導體制の充実 職業観・勤労観の育成と進路意識の向上	主体的な進路選択能力の育成
	教職員の資質向上	実践的指導力の向上 計画性を持った研修の実施	社会の変化に対応した教育観の育成
	危機管理体制の整備	実効ある学校マニュアルの策定 家庭・地域・関係機関と連携した危機管理体制の推進	生徒に対する防犯教育の充実 教員の実践的な研修・訓練
教育課程	自ら学び自ら考える力の育成	体験的・問題解決的な学習の展開	生涯学習の視点に立った実践能力の育成
	基礎・基本の定着	生徒の学力の把握と評価規準の設定	学ぶ喜びや達成感が味わえる指導方法の工夫
	総合的な学習の時間	教職員の協働体制の確立	創意工夫を生かした実践の展開
	個に応じた学習指導の徹底	評価方法の創意工夫	指導形態の工夫
課題教育	防災・安全教育	教員の防災教育に係る指導力・実践力の向上	実践的な安全教育への取組
	人権教育	人権教育推進体制への取組	確かな人権意識の育成

(選択項目)

領域	評価の観点	評価項目(例)
学校運営	学校運営全般	学年・学級経営 校務分掌
	P T C A 活動	P T C A との連携
教育課程	特別活動(学校行事など)	自主的・実践的な活動の活性化 学校行事の精選と行事内容の充実 ボランティア活動
	体力・運動能力の向上	教育活動全体における計画的な体育・スポーツ活動の実施 生涯にわたる豊かなスポーツライフ及び健康増進の基礎を培う指導の工夫
	芸術文化活動	教育活動全体における計画的な芸術文化活動の実施
課題教育	情報教育	情報活用能力の育成 情報モラルの育成 情報機器や情報通信ネットワークの活用
	国際理解教育	他国の歴史や文化の理解 交流事業の推進
	体験活動(クリエイティブ 21)	体験活動の推進
	環境・福祉教育	高齢者や障害のある人などへの理解を深める指導の推進 環境・福祉体験活動等の推進

(学校独自項目)

領域	評価の観点(例)	評価項目(例)
課題教育	学校の個性化・多様化	特色ある教育課程の編成 地域オープン講座 外部講師の活用 高大連携 総合制高校の学科間連携 インターンシップ及び職業体験
		芸術文化活動

【盲・聾・養護学校】

(共通項目)

領域	評価の観点	<必須> 評価項目	<自由> 評価項目(例)
学校運営	開かれた学校づくり	家庭や地域の人々への情報発信 危機管理体制の整備	学校評議員制度等を活用した学校経営の推進 住民参加の教育活動の推進 地域や関係機関と連携した安全な学校づくり
	進路指導	進路指導体制の充実 進路研修会等の実施	職業観・勤労観の育成 就業体験活動の実施 受入先、企業等との連携
	教職員の資質向上	実践的指導力と専門性の向上 計画性を持った研修の実施	社会の変化に対応した教育観の育成 家庭や地域との円滑な関係の構築
	危機管理体制の整備	教職員の協働体制の確立 評価方法の創意工夫	創意工夫を生かした実践の展開 指導形態の工夫
教育課程	個に応じた学習指導の徹底	幼児児童生徒個々の課題を明確にした個別の指導計画の作成 指導方法や指導体制の工夫 教科指導、合わせた指導等、教育課程の実施状況 自立活動の教育課程への位置づけ	長期目標と短期目標の適切な設定と指導への反映 保護者との情報の共有 個人情報の管理システムの確立
課題教育	防災・安全教育	教員の防災教育に係る指導力・実践力の向上 実践的な安全教育への取組	効果的な教材の開発
	人権教育	人権教育推進体制への取組 確かな人権意識の育成	
	YU・らいふ・サポート事業 (社会参加活動/交流教育)	学校間交流の充実 社会性や積極性を育てる体験活動の展開 地域の協力、連携の在り方	居住地交流、地域交流の推進 交流相手校職員との情報共有や意見交換

(選択項目)

領域	評価の観点	評価項目(例)
学校運営	関係諸機関との連携	連携体制の推進(ネットワーク作り) 医療的ケアの取組 医療、福祉、労働等、諸機関との連携
	学部・学年運営	協働体制の推進
	教育相談	校内の支援体制の整備 指導法や評価法などについての研修の充実 相談者のニーズに合った教育相談の実施 関係機関との連携
教育課程	道徳教育	全教育活動の中での道徳性の育成 家庭や地域社会と連携した道徳教育の実践 魅力的な教材の開発・活用
	特別活動(学校行事など)	自主的・実践的な活動の活性化 宿泊学習、体験学習 学校行事の精選と行事内容の充実 土曜日活動支援事業
	総合的な学習の時間	教職員の協働体制の推進 創意工夫を生かした実践の展開 全体計画の作成
課題教育	健康教育	学校保健の充実と児童の健康に対する意識の向上 学校給食を通じた望ましい食習慣の育成
	情報教育	情報活用能力の育成 情報機器や情報通信ネットワークの活用 情報モラルの育成 教職員の情報活用能力の向上
	国際理解教育	他国の歴史や文化の理解 交流事業の推進
	環境教育	教員の環境問題についての指導力の向上 よりよい環境の創造に向けた、児童生徒の実践的な態度の育成

(学校独自項目)

領域	評価の観点(例)	評価項目(例)
学校運営	障害の多様化に対応するための指導体制充実事業	多様化推進委員会の開催 高い専門性を持った非常勤講師の活用 講師と職員との情報の共有 教職員の資質向上への反映

「実践目標」欄には、以下の高等学校の事例を参考に、評価項目を具体化して実際に取り組もうとする内容を記入する。

共通項目

領域	評価の観点	評価項目	実践目標
学	開かれた学校づくり	家庭や地域への情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 学校のホームページを通じて、学校の情報を可能な限り公表し、月に一度は内容を更新する。 学校だより等を発行し、保護者に学校の情報を提供する。
		学校評議員制度等を活用した学校運営の推進	<ul style="list-style-type: none"> 学校評議員会を学期に1回以上実施し、各委員から出された意見を吟味し、次学期の学校運営に反映させる。 学校評議員に授業や学校行事に参加していただき、それについての意見を聴取し、授業や行事の改善に役立てる。
		学校施設や教育資源の地域への開放	<ul style="list-style-type: none"> 学校施設を定期的に地域の活動のために開放する。 地域オープン講座などを開設し、生徒と地域住民が共に学ぶ環境づくりをする。
		地域や関係機関と連携した安全な学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> 地域や近隣の学校・関係諸機関との連携を密にし、不審者情報等を共有する。 P T Aと連携し、登下校のマナー指導を月に1回行う。
校	生徒指導	生徒指導方針の確認と指導体制の推進	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初に生徒指導方針を明確に職員、生徒に示し、定期的にその方針の達成状況を確認する。
		生徒の内面の理解を図る指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> 各学期に2回以上の個人面談を実施するとともに、家庭と密接な連携を図り、必要であれば家庭訪問を行う。 キャンパスカウンセラーによるカウンセリング研修を実施し、生徒の内面理解を図る指導法の共有を図る。
		生徒の自主・自律の精神を育む指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会が設定した課題について、生徒会を中心に討論会をもち、生徒の自立の意識を高める。 生徒会行事については、実行委員会を設置し、生徒が企画・運営を行う。
運	進路指導	進路指導体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> 3(4)年間を見据えて、進路指導に関する年間計画を作成し、組織的・継続的に進路指導を実施する。 進路状況・結果について、進路指導部と各学年が連携し、分析・対策を検討する。
		職業観・勤労観の育成と進路意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師による進路講演会を開催し、生徒の職業観、勤労観を高める。 「進路ニュース」等の発行により、生徒・保護者に進路情報を提供し、進路への意識を高める。
		主体的な進路選択能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 3(4)年間を見通して、職業や大学の研究を計画的に実施する。 ロングホームルームや総合的な学習の時間等で、生徒に自らの生き方なり方を考えさせる。
営	教職員の資質向上	実践的指導力の向上	<ul style="list-style-type: none"> いつでも授業公開ができる体制を整える。
		計画性を持った研修の実施	<ul style="list-style-type: none"> 進路・教務・生徒指導等、学校の諸課題について校内研修を計画的に立案する。 教員が計画的に校外での研修を受ける体制を整える。
		社会の変化に対応した教育観の育成	<ul style="list-style-type: none"> 長期社会体験研修や、初任研・年次研修の社会体験研修等を活用し、社会の変化に的確に対応できる教員の育成に努める。 地域住民の意識やニーズを把握するためにアンケートを実施し、その結果の分析に基づいて対策を検討する。
営	危機管理体制の整備	実効ある学校マニュアルの策定	<ul style="list-style-type: none"> 学校の実情に応じた危機管理マニュアルを作成し、定期的に対応訓練を行う。
		家庭・地域・関係機関と連携した危機管理体制の推進	<ul style="list-style-type: none"> 家庭・地域・関係機関との連携を密にし、実情に応じた危機管理体制を推進する。
		生徒に対する防犯教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> マニュアルに基づき、不審者の侵入などの危機的事態への適切な訓練を行う。
		教員の実践的な研修・訓練	<ul style="list-style-type: none"> 危機への対応や生徒の心のケアについての研修を定期的に行う。

領域	評価の観点	評価項目	実践目標
教育課程	自ら学び自ら考える力の育成	体験的・問題解決的な学習の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップやふれあい育児体験等の体験的な学習や、問題解決的な学習を推進する。 ・教科会議などを中心に体験的・問題解決的な学習の指導法を研究し、実施する。
		生涯学習の視点に立った実践能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館や美術館等の社会教育施設との連携を図り、多様な学習機会を設定する。 ・学校設定教科・科目や多様な選択科目を設定し、興味・関心に応じた特色ある教育課程を編成する。
	基礎・基本の定着	生徒の学力の把握と評価規準の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・入学時に入学生の学力を客観的にはかるテストを行い、その結果に応じて習熟度別授業や少人数指導などの指導方法を工夫する。 ・各教科で評価規準を設定し、それに基づいた評価を行い、その正当性の検証を行う。
		学ぶ喜びや達成感が味わえる指導方法の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校の授業を参観したり、各教科で授業研究会をおこない、生徒の興味・関心を呼び起こす指導を工夫する。 ・各教科専門部会や県立教育研修所等が主催する研修会に積極的に参加し、魅力的な授業づくりの工夫をする。
	総合的な学習の時間	教職員の協働体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間についての委員会を定期的に開催し、3(4)年間を見据えた計画を立てる。 ・生徒の興味、関心、適性を把握し、そのニーズにあった学習テーマを設定し、全教員が取り組む。
		創意工夫を生かした実践の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館等を利用した探求活動や、スピーチ等による表現活動の場を設定する。 ・各教科の学習活動や特別活動との連携を図る。
	個に応じた学習指導の徹底	評価方法の創意工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・ポートフォリオによる評価や、生徒の自己評価など様々な評価方法の導入を図る。 ・評価方法について全職員で各教科の評価に対して意見交換を行う。
		指導形態の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・英語・数学等で習熟度別授業や少人数指導を実施し、個に応じた指導を行う。 ・各教科で個別指導、グループ指導、一斉指導など効果的な指導形態を研究実践する。
課題教育	防災・安全教育	教員の防災教育に係る指導力・実践力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練を行う前に教員による打ち合わせを十分に行い、意識の高い訓練を行う。 ・救急救命講習の受講により、いかなる時にもまず生徒の命を守るという教職員の意識と技術を高める。
		実践的な安全教育への取組	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会・運動部等を中心に、長期休業の前に、救急救命講習会を実施する。 ・家庭、関係機関との連携を深め、交通安全指導を強化し、自他の生命を尊重する意識を高める。
	人権教育	人権教育推進体制への取組	<ul style="list-style-type: none"> ・3(4)年間を見通した人権ロングホームルームの充実を図り、計画的に実施する。 ・年度末に人権教育推進部を中心に、年間の人権HRの実施内容などを検証する。
		確かな人権意識の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・人権HRや生活体験発表会において、生徒の身近な問題から人権を相互に尊重し合う態度を育てる。

選択項目

領域	評価の観点	評価項目	実践目標
学校運営	学校運営全般	学年・学級経営	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育目標達成に向けた学年・学級の具体的経営方針を立て、その実施に努力する。 ・生徒の資料、指導・実践の記録等を蓄積し、教師間で情報交換を行う。 ・学級委員の効果的な活用による明るい、活性化した学級運営を行う。
		校務分掌	<ul style="list-style-type: none"> ・従来の慣例に拠らない機能しやすい分掌組織をつくる。 ・それぞれの分掌における重点目標を年度当初に設定し、適宜、取組について評価・見直しを行う。
	P T C A活動	P T C Aとの連携	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や「あいさつ運動」等への積極的な参加協力により学校教育目標の具体化を図る。 ・授業参観や教育相談等の合同研修会により、学校を開き、ともに生徒理解に努める。 ・総会・役員会・委員会・学校行事等に参加できなかった保護者に対して情報を提供するとともに、意見を収集する。
教育課程	特別活動 (学校行事など)	自主的・実践的な活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の活性化や、生徒会活動の積極的な運営をすすめる。 ・リーダー研修会等を通して核になる生徒を育成し、様々な活動への生徒の自主的な参画を促し、生徒会活動全体の活性化を図る。
		学校行事の精選と行事内容の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事検討委員会を定期的で開催し、行事の精選や行事内容の充実を図る。
		ボランティア活動	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ボランティア活動、献血、募金活動等への積極的な参加を生徒会を中心に実施する。 ・P T A、教職員、地域住民、生徒で学校周辺地域の環境美化に努める。
	体育・運動能力の向上	教育活動全体における計画的な体育・スポーツ活動の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・新体力テストを実施するなど、生徒の体力・運動能力を的確に把握し、3(4)年間を見据えて、生徒の体力・運動能力を向上させる学校行事等の計画を立てる。 ・体育大会や球技大会の後は必ず職員・生徒のアンケートをとり、またその結果を次回に反映させる。
		生涯にわたる豊かなスポーツライフ及び健康増進の基礎を培う指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自己の能力に応じた運動課題を設定し、その課題を自ら解決することによって、運動技能を習得したり、高めたりする喜びを味わうと共に、その運動の特性に応じた楽しさや喜びを味わえるよう工夫した指導を行う。 ・体づくり運動を積極的に取り入れ、体育理論との関連を深めながら自己の体力や生活に応じて、活力ある生活を支える体力を高めるよう努める。
芸術文化活動	教育活動全体における計画的な芸術文化活動の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・芸能鑑賞などの芸術文化行事を計画的に実施する。 ・学園祭や文化祭等で文化部の発表の場を設ける。 	

領域	評価の観点	評価項目	実践目標
課題教育	情報教育	情報活用能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・教科「情報」を中心に生徒の情報活用能力の育成を図る。 ・情報機器の適切な取り扱いと、情報ネットワークの創造的な活用法を身につけさせる。
		情報モラルの育成	<ul style="list-style-type: none"> ・情報や情報通信技術が果たしている役割や影響を理解させ、情報発信に伴う責任など情報モラルを育成する。 ・人権尊重を基盤として、プライバシーの保護や著作権の尊重等の重要性を考えさせ、出会い系サイトやインターネットショッピング等に潜む危険性について指導する。
		情報機器や情報通信ネットワークの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・年度末に教科・個人ごとに活用状況の報告をまとめ、学校全体の状況を検証する。 ・インターネットを使って外国の学校と交流を持つなどの、新しい学びを工夫する。
	国際理解教育	他国の歴史や文化の理解	<ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な学習の時間」等において、他国の歴史や文化について理解を深める。 ・海外修学旅行に向けての事前事後学習で、訪問国の歴史・文化・生活習慣等を調べる。 ・日本語理解が不十分な生徒の学校や地域社会への適応を図るため、家庭や地域社会との連携を密にして、協力体制を確立する。
		交流事業の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ALTを外国語の授業以外にも積極的に活用し、コミュニケーション能力の育成並びに異文化理解の深化を図る。 ・海外修学旅行で訪問校の生徒と現地で交流し、また事前事後に手紙やメールなど生徒同士の交流を深める。
	体験活動 (クリエイティブ21)	体験活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・体験的な教育活動により、生徒の発想や主体性を生かし、活力に満ちた魅力ある学校づくりを進める。 ・中学校訪問、学校説明会、学校見学などにより開かれた学校づくりをめざす。
	環境・福祉教育	高齢者や障害のある人などへの理解を深める指導の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉施設との交流や奉仕活動を通して、福祉に対する意欲や関心を待たせ、日常的に福祉活動に取り組んでいくよう指導する。 ・命の大切さや思いやりの心など福祉に対する心、福祉への理解、福祉活動に取り組んでいく意欲や態度を育てる。
		環境・福祉体験活動等の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・講演会の実施や、福祉及び環境に関するロングホームルームの機会をもち、課題研究のテーマ設定につなげていく。 ・ゴミ・リサイクル・省エネルギーなどの身近な問題から環境への関心を高め、よりよい環境を創造するための実践力を育てる。

学校独自項目

領域	評価の観点	評価項目	実践目標
課題教育	学校の個性化 ・多様化	特色ある教育課程の編成	<ul style="list-style-type: none"> ・興味・関心や進路希望等に対応した類型を設置し、その教育目標・教育課程・年間計画を明確にする。 ・地域人材・有識者等の特別非常勤講師を招聘し、類型の特色化を推進する。
		地域オープン講座	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師と本校の担当教員が連携し、充実した教育内容を実施する。 ・講座で作成した作品の展示会を実施する。
		外部講師の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師との詳細な打ち合わせを行い、より効果的な運用を図る。 ・外部教員の活用を促進するため、組織的に取り組めるような体制を整える。 ・生徒の多様な興味・関心に応えるとともに、より高度な授業内容を位置づけ、発展的な学習活動を展開する。
		高大連携	<ul style="list-style-type: none"> ・大学の科目を聴講する形で、生徒の知的好奇心を高め個性の伸長を図り、高校の単位として認定する。 ・「総合的な学習の時間」「課題研究」の指導助言などの協力体制を図る。 ・図書館などの施設を、「総合的な学習の時間」「課題研究」の調査・研究のために役立てる。
		総合制高校の学科間連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ひまわり見本園参加・朝霧茶の栽培支援・環境美化活動など、校外での教育活動を実施する。 ・モデル果樹園・佐用牛の保存事業推進など、地域農業技術センターとして活動する。
		インターンシップ及び職業体験	<ul style="list-style-type: none"> ・クリエイティブ21事業の一環として、交通安全マスコット配布を実施する。 ・各科の技術検定・秘書検定・ワ・プロ検定・フォークリフト・溶接などの資格取得をめざす。 ・畜産科インターンシップ、農業科・畜産科の当番実習などをとおして「命」を育む体験学習を実施する。
教育課程	芸術文化活動	伝統文化を愛する心の涵養	<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動のなかで、伝統芸能への理解を深め、伝統表現を取り入れるなどの工夫をする。 ・外部講師の招聘や、伝統芸能講座を実施し地域との交流を図る。

アンケートを作成するに当たっては、4段階の回答にして、中間の「普通」に集中することを避けるようにする。また、設問によっては、「わからない」の項目を設けることがあってもよい。

自然学校アンケート（児童用）

5年組	
-----	--

1 自然学校を楽しみにしていましたか。

- ア 大変楽しみにしていた イ 楽しみにしていた
 ウ そうでもなかった エ まったくそんな気が起きなかった

2 自然学校での活動に、すすんで取り組みましたか。

- ア よくできた イ できた ウ あまりできなかった
 エ できなかった

3 あなたにとってよかったと思うプログラムや活動は何ですか。

4 友だちの新しい一面を発見できましたか。

- ア たくさんあった イ あった ウ あまりなかった エ なかった

5 自然学校に行ってよかったと思いますか。

- ア とても思う イ 思う ウ あまり思わない エ まったく思わない

6 自然学校を終え、今のあなたの気持ちや行動について、あてはまるものを選びで囲みましょう。（いくつでもかまいません。）

- ア 自然に興味や関心をもっている。
 イ 自分のことは、できるだけ自分でしょうと思う。
 ウ 約束や決まりを守るようにしたい。
 エ 初めてのことで自分からやってみようと思う。
 オ 困っている人がいれば、すすんで助けようと思う。
 カ みんなと協力しあって活動することが楽しい。
 キ 一人であるより、みんなである方が楽しい。
 ク がまん強くなった。
 ケ その他（例えば、家庭での規則正しい生活に心がけるようになったことなど、自然学校前と変わったことがあればなんでも書きましょう。）

保護者の皆様へ（自然学校アンケート）

1 自然学校実施後、自然学校でのことをお子さまからすすんで話しましたか。

- ア よく話した イ 話した ウ あまり話さなかった
エ まったく話さなかった

2 自然学校を通じ、お子さまの成長が感じられましたか。

- ア とても感じる イ 感じる ウ あまり感じない
エ まったく感じない

3 自然学校を終えてからのお子さまの様子について、あてはまるものがあれば
で囲んでください。（複数可）

- ア 自然に対し興味や関心をもつようになった。
イ 自分のことは、できるだけ自分でしようとしている。
ウ 家庭での約束や決まりが守れるようになっている。
エ 初めてのことで自分からやってみようとするようになった。
オ 困っている人がいれば、助けようという気持ちが強くなったように思う。
カ 家族との会話が増えた。
キ 友だちとよく遊ぶようになった。
ク 以前より我慢強くなった。
ケ 生活習慣（あいさつ、起床・就寝時間、間食など）への意識が高くなった。
コ その他（よろしければ、その他、お子さまの様子で気づかれたことをご記入
ください。）

4 (1)自然学校実施後、家庭でも様々な体験を持つ機会が増えましたか。

- ア 増えた イ 変わらない

(2)それはどのような体験ですか。具体的にお答えください。

ご協力ありがとうございました。

保護者の皆様へ（「トライやる・ウィーク」）

あてはまる所を で囲んでください。

- 1 この活動について、どのようにしてお知りになりましたか。

学校の説明で 子どもと話して 知人等と話して その他

┌──────────┴──────────┬──────────┴──────────┬──────────┴──────────┬──────────┴──────────┐

- 2 あなたのお子さんの取り組む内容について、事前に家庭で話し合いましたか。

よく話し合った 話し合った あまり
話し合わなかった まったく
話し合わなかった

┌──────────┴──────────┬──────────┴──────────┬──────────┴──────────┬──────────┴──────────┐

- 3 期間中にあなたのお子さんと、この活動について話し合われましたか。

よく話し合った 話し合った あまり
話し合わなかった まったく
話し合わなかった

┌──────────┴──────────┬──────────┴──────────┬──────────┴──────────┬──────────┴──────────┐

- 4 あなたは、この活動を通して、子どもに対する見方が変わりましたか。

大きく変わった 変わった あまり
変わらなかった まったく
変わらなかった

┌──────────┴──────────┬──────────┴──────────┬──────────┴──────────┬──────────┴──────────┐

- 5 「トライやる・ウィーク」のような活動があれば、また参加させたいと思いますか。

ぜひ参加させたい 参加させたい あまり
参加させたくない 参加させたくない

┌──────────┴──────────┬──────────┴──────────┬──────────┴──────────┬──────────┴──────────┐

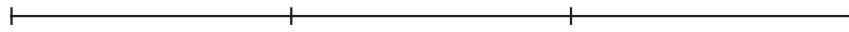
ご協力ありがとうございました。

「トライやる・ウィーク」受入先の皆様へ

あてはまる所を で囲んでください。

- 1 あなたの関わられた活動に参加した生徒たちの取り組み方はどうでしたか。

大変積極的だった 積極的だった 消極的だった 大変消極的だった



- 2 この1週間で、生徒たちに変化は見られましたか。

大きく変わった 変わった あまり変わらなかった まったく変わらなかった



- 3 この1週間を通して、中学校に対する見方が変わりましたか。

大きく変わった 変わった あまり変わらなかった まったく変わらなかった



- 4 学校との連携が図れましたか。

十分にできた できた やや不十分だった 不十分だった



- 5 活動の事前・事後の生徒への指導にご協力をお願いしますでしょうか。

積極的に協力したい 協力したい 依頼があれば協力したい 協力はむずかしい



- 6 「トライやる・ウィーク」は学校と地域社会の関係にとってどのような活動でしたか。

大変有益だった 有益だった あまり有益とはいえない 有益とはいえない



ご協力ありがとうございました。

5

校種別点検票

点検票は、評価シートの補助的な位置づけのものである。点検票を活用するかどうかは、各学校で判断する。

評価は4段階（A...よくできた B...できた C...あまりできなかった D...できなかった）で設定している。例えば、1-(1)、1-(2)、1-(3)・・・についてそれぞれ評価し、それらを総合して1について評価する。

【幼稚園】 例1

評価の観点	開かれた幼稚園づくり	
評価項目	家庭や地域の人々への情報発信 保護者や地域の人々の保育活動参加や園行事へのゲストティーチャーの活用	
実践目標	幼稚園が、家庭・地域社会と連携・協力し教育活動にあたる。 家庭や地域社会等の幼稚園教育に対する理解度を高める。	
評価内容（例）		評価
1	家庭や地域の人々への情報発信と願い等の把握	
	(1) 教育目標に合わせて、計画的に参観日が設定できたか。	
	(2) 参観後の懇談会等で、保育内容を分かりやすく説明できたか。	
	(3) 参観時間を制限しないオープンな保育参観日が設定できたか。	
	(4) 保護者以外を対象とする参観日が実施できたか。	
	(5) 園だより・学級通信で園の情報が発信できたか。	
	(6) 園行事について、保護者の願いや意見が取り入れられたか。	
2	保護者や地域の人々の保育活動参加や園行事へのゲストティーチャーの活用	
	(1) 保護者の保育参加の時期・内容は適切だったか。	
	(2) 地域のゲストティーチャーの活用の時期・内容は適切だったか。	
	(3) 事前に保護者、ゲストティーチャーと綿密な打ち合わせができていたか。また、事後の反省ができたか。	
3	保護者や地域の人々をはじめ地域社会との交流	
	(1) 園児の興味や関心に基づいて地域社会・その他の施設と交流できたか。	
	(2) 地域の行事に積極的に参加し、地域の文化や生活にふれられたか。	
	(3) 園周辺の自然の中で楽しんで活動できる工夫ができたか。	
	(4) 安全のための下見ができていたか。	
	(5) 教師自身が地域に出かけて地域の人とコミュニケーションがとれていたか。	
4	施設設備の開放	
	(1) 園庭や園舎の開放ができたか。	
	(2) 地域社会、保護者の願いに添って開放ができたか。	

A...よくできた B...できた C...あまりできなかった D...できなかった

【幼稚園】 例2

評価の観点	子育て支援の推進	
評価項目	「親と子の育ちの場」としての役割や機能の充実 子育て相談活動の実施	
実践目標	家庭・地域社会の願いや期待をとらえ、園運営に生かす。 子育て支援の必要性や意義を教職員が共通理解し、積極的に推進する。	
評価内容（例）		評価
1 地域社会における子どもの遊び場として		
(1) 地域の幼児教育のセンターとして、園庭、保育室、図書室等を開放していたか。		
(2) 地域に住む子ども同士、親子、あるいは幼稚園児と一緒に遊ぶ場の設定や行事を計画的に行っていたか。		
(3) 行事や活動について、教員間、あるいは保護者、地域の人との連絡会や打ち合わせを行っていたか。		
(4) 地域の実態を捉え、預かり保育を実施していたか。		
2 「親と子の育ちの場」としての役割や機能の充実		
(1) 親同士や親子が出会うきっかけとなるような会を開いていたか。		
(2) 子育てについてなど、親を支援する学習会を開いていたか。		
(3) 「子育てサークル」「子育てネットワーク」などの活動を作ったり、活動を支える役割をしていたか。		
(4) 親同士がつながる「子育てサロン」のような部屋を工夫し設けていたか。		
3 子育て相談活動の実施		
(1) 保護者の子育てやその他の相談相手になることができたか。		
(2) 育児不安、乳幼児の健康についての「子育て相談」を定期的に行っていたか。		
(3) 医療機関、児童相談所等の専門機関との連携を行ったり、その内容を保護者に知らせる役割をしていたか。		
4 子育てに関する情報提供		
(1) 地域の人に向けての幼稚園行事や子育て支援事業を、地域の連絡会や他校種に対して知らせていたか。		
(2) 幼稚園や地域の行事、あるいは子育てに関する事業や情報を伝える掲示板を設けたり、ホームページを開設したりしていたか。		
(3) 地域の保育所や小学校等の他校種、自治会等との協力体制が整っていたか。		

A...よくできた B...できた C...あまりできなかった D...できなかった

【幼稚園】 例3

評価の観点	道徳性の芽生えの育成	
評価項目	幼時の体験や経験を通じた道徳性の芽生えの育成 小学校低学年との連続性のある指導の工夫	
実践目標	幼児の体験や経験を通して、人として生きていく上で大切である「道徳性の芽生え」を育成する。 幼児一人一人の発達の見通しをもった指導計画を作成し、具体的な指導にあたる。	
評価内容（例）		評価
1 指導計画		
(1) 教育課程の中に道徳性の芽生えを培う教育が位置づけられていたか。		
(2) 道徳性の芽生えで何を育てていくかが職員間で討議され、一人一人の教員が指導の方向性を把握していたか。		
(3) 幼児の発達を想定した具体的な指導計画が立案されていたか。		
2 小学校低学年との指導の連続性の工夫		
(1) 道徳性の芽が育つ機会を見逃さず、的確な指導ができたか。		
(2) 直接体験を通して、ルールの必要性や物事の善し悪しに幼児自らが気づくような指導ができたか。		
(3) 豊かな感性、様々な気づきを育むような環境の工夫ができたか。		
(4) 教員が幼児のモデルとなるよう心がけたか。		
(5) 幼稚園と小学校の間で、それぞれの幼児・児童の実態や道徳教育について、研修したり、話し合ったりする機会をもつことができたか。		
3 体験・経験の充実		
(1) 動植物の飼育栽培等をとおり、可愛がったり、いとおしく思ったりする気持ちや命の大切さに触れる体験を取り入れることができたか。		
(2) 自分の思いを伝えたり、相手の思いを理解したりするような人とのかかわりを体験する場をもつことができたか。		
(3) 機会を捉え、自己を十分発揮し、満足感や自己肯定感を味わう体験をさせることができたか。		
(4) 葛藤やトラブルを乗り越える体験のできる場や機会を逃さず、自己抑制する力を育成することができたか。		
4 家庭や地域社会と連携した道徳性の芽生えの育成		
(1) 道徳性が、人として生きていくうえで大切であることに理解が得られるよう努めたか。		
(2) 幼児の具体的な成長を伝えるとともに、家庭からの情報を柔軟に取り入れ、指導の成果が上げられたか。		

A...よくできた B...できた C...あまりできなかった D...できなかった

【幼稚園】 例4

評価の観点	校 種 間 連 携	
評価項目	幼・小連携の推進 私立幼稚園との連携	幼・保連携の推進 中学校や高等学校等との連携
実践目標	他校種との交流の意義や具体的な連携の進め方について教員間で連絡を取り合いながら、様々な交流活動を行う。 家庭や地域社会の理解や協力を得ながら、他校種等との協力体制を充実する。	
評 価 内 容 (例)		評 価
1 交流事業の立案		
(1) 教育目標や教育課題に添った年間の交流の計画を立てることができたか。		
(2) 幼児が親しみをもって参加できる交流事業を工夫し計画することができたか。		
(3) 年間教育計画に組み入れ、事業実施後に効率的な評価・改善を行うことができたか。		
2 他校種の子も達への指導の工夫		
(1) 他校種の児童・生徒とふれあう中で、幼児が楽しく過ごせるような配慮や援助・指導を行ったか。		
(2) 一人一人の幼児が自主的に活動したり充実感を味わったりできるような指導を行ったか。		
(3) 他校種それぞれとの交流が、幼児の人とかかわる力を育むことに結びつくような指導ができたか。		
3 他校種との指導者同士の交流		
(1) 打ち合わせや事前研修・合同研修会を行い、互いの教育に対する理解を深め、指導の共通理解ができたか。		
(2) 中学校の「トライやる・ウィーク」実施に際しては、綿密な打ち合わせをし、期間中の実態把握や反省会なども行ったか。		
(3) ゲストティーチャーとして、他校種の指導に参加しそれぞれの教育の独自性を理解することができたか。		
(4) 日常的に情報交換を行い、交流事業の立案に生かすことができたか。		
4 幼児・児童・生徒との交流		
(1) 小学校・保育所とは、年間の合同行事だけでなく、日常的に遊んだり、合同活動をしたりする機会があったか。		
(2) 多様な年齢の交流を通して、幼児が年長者として自覚をもち優しく行動したり、年上への憧れをもち就学や成長することへの意欲を高めたりすることができたか。		
5 他校種との保護者同士の交流		
(1) 小学校入学への不安や過剰な期待が解消できるように、年1回以上の合同保護者研修会を行ったか。		
(2) 保護者同士の信頼感や安心感、また教育への関心度が高まるように、他校種連携による幼児の育ちを明確にアピールすることができたか。		

A...よくできた B...できた C...あまりできなかった D...できなかった

【幼稚園】 例5

評価の観点	基本的な生活習慣の育成	
評価項目	園生活全般にわたる機会を捉えた基本的な生活習慣の育成 家庭や地域社会と連携を図った指導	
実践目標	園生活全般にわたり、機会を捉えて幼児一人一人の基本的な生活習慣を育成する。 基本的な生活習慣の大切さについて、家庭と共通理解し連携を図る。	
評価内容（例）		評価
1 年間指導計画の作成		
(1) 幼児の生活や遊びの流れを見通して計画したか。		
(2) 幼児の年齢や発達に添った指導計画であったか。		
(3) 幼児が興味・関心を持って行う内容であったか。		
(4) 健康診断などの保健行事を家庭との連携を図りながら取り入れていたか。		
(5) ねらい、内容、計画について職員間で共通理解を図る話し合いや研修をもつことができたか。		
2 園生活全般にわたる機会を捉えた基本的な生活習慣の育成		
(1) 幼児が遊びや生活の中で、幼児自ら進んでしようとする取組であったか。		
(2) 幼児なりに健康や体を大切にしようとする意識が持てる指導や援助ができたか。		
(3) 幼児が基本的な生活習慣を身につけ心地よさや満足感をもち生活するようになっていたか。		
(4) 幼児の動線に配慮した園の生活環境が整えられていたか。		
3 家庭や地域社会との連携を図った指導の工夫		
(1) 幼児の基本的な生活習慣育成の趣旨について、家庭と共通理解ができていたか。		
(2) 各家庭の実態をふまえた上で、きめ細かな連携が図れていたか。		

A...よくできた B...できた C...あまりできなかった D...できなかった

【小学校】 例1

評価の観点	開かれた学校づくり	
評価項目	住民参加の教育活動の推進（「いきいき学校」応援事業）	
実践目標	いきいき学校応援団等、地域の人材を積極的に活用して、学習の活性化を図るとともに、学校と地域が一体となって子どもたちを育てていこうとする気運を高める。 いきいき学校応援団バンクの活用と充実を図る。	
評価内容（例）		評価
1 事業の啓発		
(1) 「いきいき学校」応援事業の趣旨等を、保護者や地域に知らせる取組を行ったか。		
(2) P T A総会や各種団体の会合等で「いきいき学校」応援事業の趣旨を伝え、積極的に協力依頼をしたか。		
2 推進計画の作成		
(1) 学校教育計画の中にいきいき学校応援団の支援による教育内容を組み入れたか。		
(2) 学年ごとにどんな内容でいきいき学校応援団の支援を受けるか計画できたか。		
(3) 特定の分野に専門性の高い郷土出身者を「ふるさとの先輩」として招聘し、総合的な学習の時間の支援を得る計画を立てたか。		
3 いきいき学校応援団に支援された授業		
(1) いきいき学校応援団の支援を受けるねらいを明確にしていたか。		
(2) 児童の生活実態や学習の進度、興味・関心、課題意識等について、いきいき学校応援団と打ち合わせを行ったか。		
(3) 指導者は教師であることを明確にし、いきいき学校応援団と適切に役割分担をしていたか。		
(4) 児童の学習の深まり等、授業の成果について、いきいき学校応援団の意見を聴取したか。		
(5) いきいき学校応援団の支援により魅力ある授業展開ができたか。		
4 いきいき学校応援団バンクの充実及び管理		
(1) いきいき学校応援団がどの分野で必要か明確にして、登録者数を増やしたか。		
(2) 参観日や授業研究会に、いきいき学校応援団登録者が出席できる体制になっていたか。		
(3) 情報の更新や追加登録ができる体制が整備していたか。		
(4) 個人情報に配慮して登録情報を管理していたか。		

A...よくできた B...できた C...あまりできなかった D...できなかった

【小学校】 例2

評価の観点	基礎・基本の定着と個に応じた学習指導の徹底(新学習システム)	
評価項目	指導内容・指導方法の工夫改善 評価方法の創意工夫 基礎的・基本的内容の把握と評価規準の設定	
実践目標	児童一人一人の興味関心や学習の状況に応じたきめ細かな指導を徹底し、「わかる授業」の実現を目指す。 個に応じた学習指導により、児童一人一人の学習意欲を高める。	
評価内容(例)		評価
1 全体計画の作成		
(1) 全教職員で新学習システムの在り方を共通理解した上で、推進委員会を設置し、推進計画や推進体制を整備したか。		
(2) 一人一人の児童に確かな学力をつけるために具体的な目標を設定したか。		
(3) P T A 総会、学級懇談会、各種団体等の会合で新学習システムの導入の趣旨を説明したか。		
2 新学習システムの実施		
(1) 個に応じたきめ細かな指導を行うための指導体制(教員の専門性を生かした配置、児童のグループ分け等)は適切か。		
(2) 授業のねらいや、システム導入のねらいが明確になっていたか。		
(3) 学年間及び推進教員(加配教員)との打ち合わせ等、連携をとりながら、指導方法の工夫改善に努めていたか。		
(4) 基本的な生活習慣や学習習慣について共通理解のもと指導に当たっていたか。		
3 評価方法の工夫		
(1) 学習への意欲・関心の高まりや学力の向上が見られたか。		
(2) 客観的なデータをもとに評価し、その評価が指導に生かされていたか。		
(3) 児童の多面的理解のために、教員間で情報交換は密にできていたか。		
4 新学習システムの検証		
(1) 個に応じたきめ細かな指導や、専門性を生かした授業ができたか。		
(2) 保護者・地域社会へ情報提供し、新学習システムについての理解が得られていたか。		

A...よくできた B...できた C...あまりできなかった D...できなかった

【小学校】 例3

評価の観点	総合的な学習の時間	
評価項目	学校としての全体計画の作成とその工夫改善 各教科との関連を図った指導の展開 外部人材や外部施設等の活用 評価方法の創意工夫	
実践目標	学校の特色や児童の興味関心を生かした総合的な学習の時間を推進する。 学校の全体計画に基づき、学習のねらいや各教科との関連、児童に身につけさせたい力等を明確にして、総合的な学習の時間を進める。	
評価内容（例）		評価
1	学校としての全体計画の作成とその工夫改善	
	(1) 総合的な学習の時間を教科学習や他の体験活動との関連を考え、教育課程に適切に位置づけた全体計画を作成したか。	
	(2) 児童の興味・関心に応えるために、地域の人材や素材を活用する全体計画を作成したか。	
	(3) 児童や学校の実態をふまえ、具体的な目標を設定したか。	
2	学習条件の整備	
	(1) 学習に必要な教材や用具がそろっていたか。	
	(2) 活動場所が安全だったか。	
	(3) 活動に応じた指導体制が整っていたか。	
3	各教科等との関連を図った指導の展開	
	(1) 毎時のねらいや身につけさせたい力が明確になっていたか。	
	(2) 児童自身が学習の見通しを持ち、次時の課題や取り組む活動が明確になっていたか。	
	(3) 「総合的な学習の時間」で学習する内容と各教科との関連が明確になっていたか。	
4	評価方法の工夫	
	(1) その時間のねらいや単元全体のねらいが達成できたか。	
	(2) 指導に生かされるような評価になっていたか。	
5	外部人材や外部施設等の活用	
	(1) 特別非常勤講師や「いきいき学校応援団」などの地域の人材を活用したか。	
	(2) 学習の成果を保護者や地域の人に積極的に知らせたか。	
	(3) 「総合的な学習の時間」の啓発に取り組んだか。	

A...よくできた B...できた C...あまりできなかった D...できなかった

【小学校】 例4

評価の観点	自 然 学 校	
評価項目	教育課程に位置づけた全体計画の作成及びねらいの明確化 児童の安全・健康管理体制の整備 児童の主体性を生かした自然学校の実施 自然学校での体験がその後の生活に生かされる指導の工夫	
実践目標	児童や学校の実態を踏まえて、具体的なねらいをもち、児童の主体性を生かした自然学校を実施する。 自然学校での体験が、その後の生活や学習に生かされるよう、指導を工夫する。	
評 価 内 容 (例)		評 価
1	教育課程に適切に位置づけた全体計画の作成やねらいの明確化	
	(1) 全体計画が、自然学校と他の体験活動や総合的な学習の時間等との関連を考えたうえで、教育課程に適切に位置づけられていたか。	
	(2) 前年度の反省や課題（評価結果）が生かされたか。	
	(3) 児童や学校の実態を踏まえ、具体的なねらいの設定と、ねらいに沿った内容が貫かれていたか。	
	(4) 教職員間の共通理解、協力・支援体制の確立ができていたか。	
2	児童の安全・健康管理体制の整備	
	(1) 健康面等配慮が必要な児童の把握、対応はできたか。	
	(2) 連合実施校との調整ができたか。	
	(3) 指導員、指導補助員等との打ち合わせを行ったか。	
	(4) 事前に利用施設と詳細な打ち合わせを行ったか。	
	(5) 活動場所の安全点検・確認は適切だったか。	
	(6) 緊急時の対応について準備できていたか。	
	(7) 児童や保護者に対し、趣旨や準備物について説明を行ったか。	
3	自然学校前の活動	
	(1) 児童の不安感を和らげ、児童の意欲を高める工夫をしたか。	
	(2) 児童が主体的に活動できるよう事前の関連学習や準備を行ったか。	
	(3) プログラム設定について、児童の参画をはかったか。	
4	児童の主体性を生かした自然学校の実施	
	(1) 児童の主体的な活動が展開できたか。	
	(2) 児童にとって、ねらいに沿った有意義な活動となったか。	
	(3) 友だちとの共同生活や地域とのふれあいを通して児童の人間関係を豊かにできたか。	
	(4) 一つの活動にじっくりと取り組むなど、タイムスケジュールの設定は適切であったか。	
	(5) 施設、人的配置、経費、関係者の連携等は適切であったか。	
5	自然学校での体験がその後の生活に生かされる指導の工夫	
	(1) 自然学校の貴重な体験を児童にふり返らせることができたか。	
	(2) 自然学校での体験が、その後の生活や学習に生かされるよう指導を工夫したか。	
	(3) 自然学校の成果を生かすため、家庭や地域社会と連携する取組を行ったか。	

A...よくできた B...できた C...あまりできなかった D...できなかった

【小学校】 例5

評価の観点	読書活動の推進	
評価項目	家庭と連携した読書習慣の確立と読書指導の充実 学習情報センター・読書センターとしての学校図書館の整備	
実践目標	読書に親しむ子どもを育てる。 学校図書館を学習情報センター・読書センターとして充実する。	
評価内容（例）		評価
1 児童が読書に親しむ全体計画の作成		
(1) 教育課程に適切に位置づけた全体計画を作成したか。		
(2) 児童や学校の実態を考慮し、各学年の発達段階に則した具体的な目標を設定したか。		
(3) 司書教諭は配置したか。		
(4) 保護者や地域の人々の協力を得られるよう工夫したか。		
(5) 年間計画の作成に児童が参画したか。		
2 学習情報センター・読書センターとしての学校図書館の整備		
(1) 学校図書館は利用しやすい状況にあったか。(蔵書数、配架、開館時間、館内の環境づくり等)		
(2) 児童に対し、図書館の利用・活用の方法について、十分な説明をしたか。		
(3) 児童や保護者に対し、読書活動を啓発する指導をしたか。		
3 実施前の準備等		
(1) 児童の興味・関心、教科や総合的な学習の時間、全校読書、読み聞かせ等、目的に応じた読書活動をしたか。		
(2) 学級文庫は整備されたか。		
(3) 読書タイム、全校読書等、本に親しむ時間を設定したか。		
(4) 保護者や地域の人々を活用することについて、事前に十分な打ち合わせをしたか。		
4 日常の活動		
(1) 児童自ら進んで読書をし、楽しんだか。		
(2) 保護者や地域の人々の協力を得て、読み聞かせや図書整理等を行うことができたか。		
(3) 有効な読書活動を進めるための環境は整っていたか。 (雰囲気作り、読みたい書物、時間、場所等)		
5 実施後の活動		
(1) 想像力、集中力、思いやり等、児童の変容を知ることができたか。		
(2) 家庭等での読書活動を充実させるため、家庭と連携する取組を行ったか。		
(3) 今後、読書活動の質の向上を図るため、新たな工夫を行ったか。		

A...よくできた B...できた C...あまりできなかった D...できなかった

【中学校】 例1

評価の観点	生徒指導	
評価項目	好ましい人間関係と豊かな集団生活が営まれる学級づくり 生徒指導方針の確認と指導体制の推進 生徒の内面理解を図る指導の工夫	
実践目標	一人一人の生徒の多面的かつ共感的理解に基づく指導の大切さを認識し、人間的なふれあいを通して心のきずなを深める。 全ての教育活動を通して生徒の社会性を培うとともに、自主性・主体性の育成に努める。	
評価内容（例）		評価
1 年間指導計画の作成		
(1) 生徒のよさや問題点等、実態を踏まえ、生徒に、自ら考え、判断し、行動する能力と態度が養われる年間指導計画となっていたか。		
(2) 地域の課題や生徒の実態を踏まえ、生徒の規範意識の高揚が図れるような年間指導計画が作成されるよう十分討議したか。		
(3) 家庭・地域社会との連携が図れるよう考慮して、年間指導計画を作成したか。		
2 生徒指導方針の確認と指導体制の推進		
(1) 校長・教頭のリーダーシップの下、生徒指導担当教員を中心に全職員で取り組んだか。		
(2) 学校としての指導方針を明確にし、それが確実に実行されるよう教職員の共通理解や保護者への周知を図ったか。		
(3) 問題行動に対して、その内容、程度、状況等を的確に把握し学校として毅然とした対応を行うことについての共通理解が教職員間で図られたか。		
(4) 生徒指導体制や問題行動の取り組みの効果等について、指導方針の重点化や校務分掌の見直し等も含めた改善策の検討を行ったか。		
3 生徒の内面理解を図る指導の工夫		
(1) カウンセリングについての研修を深め、生徒の悩みを解決したり、願いを実現したりする支援体制がとられたか。		
(2) 教育相談体制が整備されており、生徒はいつでも、どこでも、誰とでも安心して相談することができたか。		
(3) 学級担任や生徒指導担当教員、養護教諭、スクールカウンセラー等がチームを組み、適切な教育相談を行ったか。		
4 家庭・地域社会・関係諸機関との連携		
(1) 日頃から保護者との連携を密にし、保護者との信頼関係を深め、一致協力して指導に当たれるよう、学校全体で連携を進めたか。		
(2) 学校評議員制度や地域教育推進事業等を活用して、地域住民から積極的に意見や情報を収集したか。		
(3) 学校のみで適切な対応が困難なケース等について、学校は問題を抱え込まず速やかに学校サポートチーム等、関係諸機関との積極的な連携に努めたか。		

A...よくできた B...できた C...あまりできなかった D...できなかった

【中学校】 例2

評価の観点	自ら学び自ら考える力の育成	
評価項目	指導内容・指導方法の工夫改善 主体的に学ぼうとする興味・関心を高める学習活動 体験的・問題解決的な学習の展開	
実践目標	生徒や地域の実態に合わせて編成した教育課程において、生徒一人一人の興味・関心に応じた学習活動を展開する。 指導内容・指導方法の工夫・改善に努め、体験的・問題解決的な学習を積極的に取り入れた学習指導を行う。	
評価内容（例）		評価
1 指導内容・指導方法の工夫改善		
(1) 生徒一人一人に、「自ら学ぼう」という学習意欲を生み出す指導を心がけたか。		
(2) 生徒の興味・関心に合わせた問題解決場面を設定し、問題解決の能力を育成する指導を心がけたか。		
(3) 授業中、誤りを恐れず、お互いのさまざまな考えを尊重しあう受容的な人間関係を育てたか。		
(4) 自ら学び自ら考える力を育成する基盤として、具体的な学習技能（本の読み方、ノートのとり方等）の徹底を図ったか。		
(5) どの生徒も意欲的に取り組める内容の教材・発問・活動を工夫したか。		
(6) 学習結果だけでなく、学習過程をより重視した指導になっていたか。		
(7) 「新しいことを学ぶことができた」「なぜそうなるのか考えることができた」などの達成感が得られる指導になったか。		
(8) 生徒のよい点や進歩の状況などを積極的に評価したか。		
2 主体的に学ぼうとする興味・関心を高める学習活動		
(1) 生徒一人一人が知的好奇心を持ちながら主体的に学習に取り組む内容になっていたか。		
(2) 青年期にさしかかる中学生として、自分の人生と学ぶことの意義がつながるような学習活動になっていたか。		
(3) 自ら考える力の基礎として、学校生活だけでなく日常生活を大切にする指導になっていたか。		
3 体験的・問題解決的な学習の展開		
(1) 各教科の特性をふまえ、体験的な学習や問題解決的な学習を積極的に取り入れたか。		
(2) 自分の考えをもち、論理的に表現したり、探究的な活動を充実したりするなどの学習活動になっていたか。		
4 社会教育施設との連携		
(1) 生徒自らが「学ぼう」という意欲を支え深めるために、地域の図書館や博物館を積極的に活用する活動を設定したか。		
(2) 「学び」の発展として各種機関が発信している情報を取り入れる手段として、インターネットを活用できていたか。		

A...よくできた B...できた C...あまりできなかった D...できなかった

【中学校】 例3

評価の観点	「トライやる・ウィーク」	
評価項目	事前事後を含め、生徒の意識を高める指導の工夫 家庭や地域社会と連携した指導の充実	
実践目標	生徒の主体性を尊重した様々な活動や体験を通して、豊かな感性や創造性などを自ら高めたり、自分なりの生き方を見つけることができるよう支援する。 保護者・地域社会・関係機関等の十分な理解を得るとともに、校区推進委員会により一層の充実を図る。	
評価内容（例）		評価
1	事前事後を含め、生徒の意識を高める指導の工夫	
	(1) 安易な受入先の決定とならないように、事前指導の工夫を行ったか。	
	(2) 「トライやる・ウィーク」で得た体験を事後に生かせるよう全体計画に位置づけた指導を行ったか。	
	(3) これまでの学校生活では見られなかった生徒の新たな側面などの発見があったか。また発見に努めたか。	
2	地域の教育力の活性化	
	(1) 「トライやる・ウィーク」実施について、受入先と連携した協力体制が確立できたか。	
	(2) 授業に「トライやる・ウィーク」の協力者を招聘するなど、地域の教育力を活用したか。	
3	家庭と連携した指導の充実	
	(1) 「トライやる・ウィーク」の趣旨について、家庭と共通理解ができたか。	
	(2) 家庭を子どもの心を育てる場とし、「トライやる・ウィーク」を共通の話題として、家族相互のコミュニケーションを深めるよう啓発に努めたか。	
4	校区推進委員会を含めた地域社会との連携	
	(1) 生徒の主体的な活動ができる受け皿の拡大に地域社会と連携して努めたか。	
	(2) 地域社会において学校教育を支援する気運が醸成される機会となったか。	

A...よくできた B...できた C...あまりできなかった D...できなかった

【中学校】 例4

評価の観点	進路指導	
評価項目	主体的な進路選択能力の育成 進路指導体制の充実 職業観・勤労観の育成と進路意識の向上 保護者と連携した進路指導の工夫	
実践目標	生徒一人一人の個性の伸長に努め、自己実現を図ることをめざした職業観・勤労観を育成する。 それぞれの能力・適性、興味・関心などに基づき、現在及び将来の生き方を考え、自分の意志と責任で主体的に進路を選択し決定することができる能力や態度の育成を図る。	
評価内容（例）		評価
1 全体計画の作成		
(1) 生徒一人一人が、将来の生き方を考え、夢や希望を持って自己実現を図ることができるような全体計画になっていたか。		
(2) 生徒一人一人の勤労観、職業観を育むことができるよう、3年間を見通した年間指導計画を作成したか。		
(3) 上級学校への体験入学や職場体験学習など、進路に関する啓発的な体験活動を取り入れた、生徒が主体的に進路を選択できる全体計画を作成したか。		
(4) 子どもたちが「生きる力」を身につけ、社会の激しい変化に流されることなく、社会人・職業人として自立していくことを目指した全体計画になっていたか。		
2 進路指導体制の充実		
(1) 生徒一人一人の将来の夢や希望する生き方を大切にしたい進路設計を支援できたか。		
(2) 生徒一人一人が自己の能力や適性、興味・関心などを生かす進路計画を立てることができるよう、進路情報を提供しながら指導できたか。		
(3) 進路実現のための道筋や課題、目標などの計画立案に生徒が意欲的に取り組めたか。		
3 職業観・勤労観の育成と進路意識の向上		
(1) 働く人たちの職業観・勤労観の学習を通して、希望する働き方、生き方に結びつくよう指導できたか。		
(2) 将来の夢や希望する生き方によって、学ぶ場や学ぶ目的が異なることを明確にし、学習の目標や意欲を喚起できるような指導ができたか。		
(3) 身近にある様々な職業や希望する職業を、主体的に調べることができるよう、進路情報の収集・活用方法を身に付けさせたり、情報提供を行ったりしたか。		
(4) 保護者や地域の人々、関係機関等と連携しながら、進路に関する啓発的な体験活動を計画し推進できたか。		
4 主体的な進路選択能力の育成		
(1) 生徒一人一人が、自分の意志と責任で進路を選択し、決定することができるよう進路相談を進めたか。		
(2) 個々の能力や適性、興味・関心など、生徒の状況を理解した上で、進路指導に取り組めたか。		
5 保護者と連携した進路指導の工夫		
(1) 保護者に進路情報の提供を行い、連絡を密にしながら、生徒の進路決定を支援できたか。		
6 進路決定後の評価		
(1) 卒業後の生徒の状況について、把握できたか。		

A...よくできた B...できた C...あまりできなかった D...できなかった

【中学校】 例5

評価の観点	校種間連携（小学校との連携）	
評価項目	学びの連続性をふまえた指導 異校種との連携体制の確立	
実践目標	小・中学校間の連携を一層促進する中で、教員の児童生徒理解を深め、学校運営、学習指導、生徒指導などについて改善を進める。 小学校の活動に支援者として中学生が参加したり、小・中学校の児童生徒が合同で体験活動を行うなど、交流活動を行う。	
評価内容（例）		評価
1 学びの連続性をふまえた指導		
(1) 小学校における児童の様子を考慮して、指導の工夫に生かしたか。		
(2) 学習指導要領や教科書等を参考としながら、小学校の教育内容を理解し、教科の指導計画を立案したか。		
(3) 小学校との連絡会等での情報交換を参考にしながら、教科指導や生徒指導等を行ったか。		
(4) 小学校の国際理解、環境、福祉、人権等の横断的・総合的な課題について学習内容を把握し、系統的な学習を進めたか。		
(5) 小学校の「総合的な学習の時間」等における学習形態や指導方法をふまえ、発達に即した段階的な指導を実施したか。		
2 積極的な学校公開や情報発信の推進		
(1) 小学校への授業公開のねらいについて、職員の共通理解のもと生徒や保護者の理解を得ながら実施しているか。		
(2) 小・中学校間で授業公開が積極的に行われ、学習指導、生徒指導などの改善を図ったか。		
(3) プライバシーに配慮し、小学校との連絡会を指導に生かしたか。		
3 小学校との連携体制の確立		
(1) 小学校との合同教員研修会や日常的な情報交換を行ったか。		
(2) 小学校と合同で学校行事や地域の清掃活動をしたり、部活動に招待したりして児童生徒の交流を図ったか。		
(3) 中学校の教職員が小学校での指導に関わるなど交流活動を実施したか。		

A...よくできた B...できた C...あまりできなかった D...できなかった

【高等学校】 例 1

評価の観点	進 路 指 導	
評価項目	進路指導体制の充実 職業観・勤労観の育成と進路意識の向上 主体的な進路選択能力の育成	
実践目標	生徒一人一人が自分に誇りを持ち、自己形成の道を歩む力を身につけさせる。 生徒の適性・能力にあった進路目標実現のためのサポートをする。	
評 価 内 容 (例)		評 価
1 課題意識と協同体制		
(1) 生徒がそれぞれの発達段階にふさわしい進路についての課題に取り組み、人間としての生き方あり方に関する指導としての共通意識を教職員が持っているか。		
(2) 生徒の能力や適性・希望等を把握し、進路指導に学校全体が取り組んでいるか。		
(3) 全教職員が一致協力して指導に当たれるよう組織的な進路指導体制の充実が図られているか。		
2 進路指導に必要な施設・設備		
(1) 進路指導に必要な進路指導室、進路相談室、進路資料室等が整備され、よく活用されているか。		
(2) 大学や企業の最新情報が収集され、生徒が閲覧しやすいようによく整理されているか。		
(3) 進路指導のために必要な経費が年度予算として確保され、計画的に使われているか。		
3 進路相談と生徒理解		
(1) 生徒や家庭の進路の悩みや要望を積極的に受け止めることができるよう、教職員がカウンセリングマインドを持って接することができるか。		
(2) 相談週間の設定や進路便りの配布など、相談しやすい環境づくりがなされているか。		
(3) 生徒からの進路の相談や悩みなどの訴えがあったときは、その内面の理解に努め、生徒の立場に立って教職員が的確に対応しているか。		
(4) 生徒理解を深めるため、本人や保護者との面談や家庭訪問、進路説明会等を実施しているか。		
4 家庭・地域社会・関係諸機関との連携		
(1) 家庭・関係機関等との連携・協力をどのように進めていくかについて、学校としての基本方針・計画や校内体制を定め、その方針や具体的な方法が示されているか。		
(2) 生徒の能力や適性・希望等の状況、学校の方針や対応等について、進路説明会の実施や講演会、進路便りなどの活用をしているか。		
(3) 大学・専門学校・事業所の進路情報等についての情報交換や連携が進められているか。		
5 進路目標実現へのサポート		
(1) 大学・専門学校等への進学を希望する生徒に対して、適切なアドバイスや、目標を実現させるための指導を適切に行っているか。		
(2) 就職を希望する生徒に対して、適切なアドバイスや企業情報を提供しているか。		

A...よくできた B...できた C...あまりできなかった D...できなかった

【高等学校】 例2

評価の観点	個に応じた学習指導の徹底	
評価項目	評価方法の創意工夫 指導形態	
実践目標	生徒一人一人の適性・能力に応じた学習を目指す。	
評価内容（例）		評価
1 全体計画・組織		
(1) 少人数・習熟度別指導等の生徒の個に応じた学習に対する共通理解が教職員の間でなされているか。		
(2) 学校の実態に即し、少人数・習熟度別指導等に関する校内研究が展開されているか。		
(3) 全教職員が一致協力して指導に当たれるよう組織的な指導体制の充実が図られているか。		
(4) 一斉指導と少人数・習熟度別指導とが適切なバランスのもとに計画・実施されているか。		
(5) 少人数・習熟度別指導の学習集団を固定化せず、弾力的・流動的に編成できるよう配慮されているか。		
(6) コースの選択や変更等の際、生徒が気軽に相談できる体制が整備されているか。		
2 少人数・習熟度別授業の実施		
(1) 少人数・習熟度別授業について、保護者・地域住民の理解・協力が得られるよう配慮しているか。		
(2) 生徒の学習成果を的確に把握し、少人数・習熟度別指導の授業改善を絶えず行っているか。		
(3) 少人数・習熟度別授業で生徒は、教科の指導目標を達成できているか。		
(4) 生徒は自己評価を行い、自己の学習改善を図っているか。		
(5) 指導の実態を相互に交換し、協同で授業開発をするなど、教職員の協力関係のもとに実施されているか。		
(6) 全教職員間で、少人数・習熟度別指導は最終的には、生徒一人一人の健全育成を目指すものであるという共通理解がなされているか。		

A...よくできた B...できた C...あまりできなかった D...できなかった

【盲・聾・養護学校】 例 1

評価の観点	個に応じた学習指導の徹底	
評価項目	幼児児童生徒個々の課題を明確にした個別の指導計画の作成 指導方法や指導体制の工夫 教科指導、合わせた指導等、教育課程の実施状況 自立活動の教育課程への位置づけ 保護者との情報の共有	
実践目標	すべての教職員が、個々の幼児・児童・生徒の障害の特性に応じた個別の指導計画をたてて、自立活動等の指導を行う。	
評価内容（例）		評価
1 個別の指導計画の趣旨の共通理解		
(1) 個別の指導計画の趣旨の徹底を図っているか。		
2 児童生徒一人一人の的確な実態把握		
(1) 児童生徒一人一人の実態把握のために諸検査を実施し、記録（カルテ）を作成しているか。		
(2) 関係機関との連携を図っているか。		
3 長期目標（年間） 短期目標（学期）の設定と授業への反映		
(1) 幼児児童生徒のニーズに応じた一貫性のあるものになっているか。		
(2) 各目標に対する評価が恒常的に行われ、目標や指導方法の見直しを行っているか。		
4 保護者と教職員との情報の共有化		
(1) 指導の開始前に、理解・協力するインフォームドコンセントの機会を設けているか。		
(2) 指導の経過において、保護者に対して指導計画の修正・変更などの情報を得るアカウンタビリティの機会を設けているか。		
(3) 指導の結果について、情報を保護者にフィードバックする機会を設けているか。		
5 個人情報の管理システムの確立		
(1) 守秘義務・プライバシー尊重の観点に立って、個別の指導計画の管理方法を教職員が共通理解しているか。		
(2) 保護者からの開示請求があった場合の手続き方法をマニュアル化しているか。		

A...よくできた B...できた C...あまりできなかった D...できなかった

【盲・聾・養護学校】 例2

評価の観点	教 育 相 談	
評価項目	校内の支援体制の整備 指導法や評価法などについての研修の充実 相談者のニーズにあった教育相談の推進 関係機関との連携	
実践目標	学校の特色や専門性を生かしながら、地域の障害児とその保護者に対して、適切な教育相談を行う。 関係機関と連携しながら、個々の発達と適正就学、進路指導の方向づけを支援する。	
評 価 内 容 (例)		評 価
1	教育相談のための校内の環境整備	
	(1) 相談者が来校しやすい環境が整備されているか。	
	(2) 相談児がのびのびと活動できる環境が整備されているか。	
	(3) さまざまな障害の子どもが来談することを想定して、相談室が確保されているか。	
2	校内の支援体制の整備	
	(1) 全職員が教育相談の意義・目的を共通理解しているか。	
	(2) 相談の申込みへの対応システムを確立しているか。	
3	指導法や評価法などについての研修の充実	
	(1) 常に最新の情報を取り入れているか。	
	(2) 検査や指導法などに関する資料を整備し、充実させているか。	
4	相談者のニーズにあった教育相談の推進	
	(1) 多様な障害やニーズに対応しているか。	
	(2) 相談者のニーズを的確に把握しているか。	
	(3) 訪問相談、電話・メールによる相談、ビデオの活用など、相談の形態を工夫しているか。	
	(4) 相談者に関する情報を個人情報ファイルに整理し、適切に管理しているか。	
5	関係機関との連携	
	(1) 障害の早期発見に関わる機関との連携を密にしているか。	
	(2) 適切な就学指導を進めるため、市郡町教育委員会と連携しているか。	
	(3) 福祉・相談機関との連携を密にしているか。	
	(4) 相談活動について関係機関に広報したか。	
	(5) 相談児の在籍する学校園からの要請に対応して、アドバイスや情報を提供しているか。	

A...よくできた B...できた C...あまりできなかった D...できなかった

【盲・聾・養護学校】 例3

評価の観点	Y U ・ ら い ふ ・ サ ポ ー ト 事 業	
評価項目	学校間交流の充実 社会性や積極性を育てる体験活動の展開 地域の協力、連携の在り方	
実践目標	障害のある児童生徒が本事業を通して、生活自立や社会自立を目指すとともに、余暇の楽しみを身につける。 それぞれの地域において、幅の広い年齢層とのふれあいが生まれノーマライゼーションに基づく支援地域づくりを推進する。	
評価内容（例）		評価
1	近隣の学校園等との交流の充実	
	(1) 学部・学年別交流を実施しているか。	
	(2) 居住地校交流を実施しているか。	
	(3) 行事等交流を実施しているか。	
2	地域住民とのふれあい活動の機会の設定	
	(1) 学校行事や土曜日活動支援事業等への参加協力を得ているか。	
	(2) 地域行事等への参加・支援を行っているか。	
3	交流相手校の教職員との相互の情報提供や意見交換	
	(1) 交流行事の計画や事後評価が恒常的に行われ、情報や意見交換が活発に行われているか。	
	(2) 学校間で合同の交流委員会組織を立ち上げているか。	
4	地域の人々や交流校の仲間との人間関係に基づく社会性や積極性の涵養	
	(1) 自校の児童生徒に地域の一員としての自覚や意識が芽生えているか。	
	(2) 日常の暮らしの中で、あいさつや声かけなどが取り交わされているか。	
	(3) 保護者の意見や感想が積極的に寄せられているか。	
5	地域住民やボランティア団体の参加・支援活動の定着	
	(1) ボランティアの参加人数や参加団体数に増加傾向が見られるか。	
	(2) ボランティアの年齢層が広範囲に広がってきているか。	
	(3) 地域住民の協力がより具体的、組織的なものとなってきたか。	
6	保護者の関心の高まりや家族ぐるみの参加の増加	
	(1) 家族ぐるみの参加が増え、とりわけ父親の参加が目立ってきているか。	
	(2) 感想文等を通して、交流事業を評価する声が多く寄せられるようになっているか。	
7	積極的な情報発信による障害のある児童生徒の理解・啓発の促進	
	(1) ホームページのタイムリーな更新がなされているか。	
	(2) 交流だより等の広報誌の発行に努めているか。	
8	奉仕作業や製作物等の販売活動等を通じた地域の人々との関わり	
	(1) 理療・理容やクリーン作戦等の奉仕活動に対して地域住民の関心が高まり協力が得られているか。	
	(2) 製作作品や農産物等の販売への協力が得られているか。	
9	開かれた学校づくりの推進やボランティアの養成による障害児(者)に対する理解啓発の促進	
	(1) オープンスクールを実施しているか。	
	(2) ボランティア養成講座を開設し充実を図っているか。	
10	登下校の安全指導等への地域の人々の理解や協力	
	(1) 地域支援ネットワークを立ち上げているか。	
	(2) 具体的な事例があるか。	

A...よくできた B...できた C...あまりできなかった D...できなかった